

# 熊本商工会議所・第53回 経営動向調査

## 平成21年9月期 結果報告書

### 業況DI ▲42.5 (前期比▲2.7) で再び悪化に転じる

～建設業（土木）が大幅に悪化し過去2番目に低い水準、

建設業（職別・設備）と卸売業は3期連続で改善～

#### 調査結果のポイント

全業種の業況DI値は▲42.5となり、前回（平成21年6月期）調査の▲39.8に比べやや悪化（▲2.7ポイント）した。

前回調査から業況が改善したのは3業種で、建設業（職別・設備）が▲37.0ポイント（+5.3ポイント）、サービス業が▲25.5ポイント（+1.8ポイント）、卸売業が▲34.6ポイント（+1.4ポイント）となった。一方、悪化を示したのは4業種で、建設業（土木）が▲56.3ポイント（▲32.5ポイント）、飲食業が▲53.8ポイント（▲18.1ポイント）、製造業が▲61.5ポイント（▲2.9ポイント）、小売業が▲49.1ポイント（▲1.8ポイント）であった。

今回の調査で業況を全体的に見ると、一年半ぶりに改善した前回調査の反動もあり再び悪化に転じた。中でも、建設業（土木）は▲35.2ポイントと2期連続の大幅な悪化で、過去2番目に低い水準となった。また、前回の調査で来期の業況見通しで過去最高を示した飲食業は▲53.8（▲18.1ポイント）で見通しとは反対に悪化した。一方、建設業（職別・設備）と卸売業は3期連続、サービス業は2期連続で改善した。

来期（平成21年10～12月）の業況見通しについては、全業種の業況DI値は▲11.5と依然やや厳しい見通しではあるものの3期連続でマイナス幅は縮小した。しかし、建設業（土木）・建設業（職別・設備）・飲食業の3業種ではマイナス幅が拡大する悪化の予想となった。

調査先からの意見として、依然として公共工事の減少や個人消費の低迷のほか、新型インフルエンザや政権交代による影響など先行きへの不安を持つ声が多い一方で、販促強化、新規事業の取り組みによる効果、年末需要など季節的要因での好転を期待する声も聞かれた。

- ・ 調査対象期間 平成21年7月～9月（平成21年度 第2四半期）
- ・ 調査期間 平成21年9月7日（月）～9月11日（金）
- ・ 調査対象数 熊本市内 小規模企業 288事業所
- ・ 回答数 216事業所（回答率75.0%）

※ 小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業をいう。

#### 《業種別回答状況》

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	26	70.3
建設業（土木）	20	17	85.0
建設業（職別・設備）	34	27	79.4
卸売業	34	26	76.5
小売業	72	55	76.4
飲食業	21	13	61.9
サービス業	70	52	74.3
合計	288	216	75.0

※ DI値（業況判断指数）について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(21年6月期)調査と比較した概況

【全業種】

製造原価・仕入(原材料等)単価はやや悪化したものの、販売(受注)・客単価は少し改善した。売上高はわずかに改善したものの、採算(営業利益)はやや悪化した。

〈製造業〉

製造原価は大幅に改善したものの、販売(受注)単価は悪化した。売上高、採算(営業利益)ともに少し改善した。

〈建設業(土木)〉

仕入単価は大幅に悪化し、受注単価はやや悪化した。売上高は改善したものの、採算(営業利益)は悪化した。

〈建設業(職別・設備)〉

仕入単価、受注単価ともにわずかに改善した。売上高は改善し、採算(営業利益)は大幅に改善した。

〈卸売業〉

仕入単価は大幅に悪化したものの、売上単価はやや改善した。売上高、採算(営業利益)ともに悪化した。

〈小売業〉

仕入単価、客単価ともに改善した。売上高、採算(営業利益)ともにやや悪化した。

〈飲食業〉

仕入単価、客単価ともに少し悪化した。売上高は改善したものの、採算(営業利益)はわずかに悪化した。

〈サービス業〉

仕入単価(材料等)は少し悪化したものの、客単価は改善した。売上高はやや悪化し、採算(営業利益)は悪化した。

業種別の業況一覧

上段＝対前期比  
下段＝対前年同期比

業種	今回調査 (21年9月期)	前回調査 (21年6月期)	今回調査との 比較ポイント
全業種	▲ 42.5	▲ 39.8	▲ 2.7
	▲ 47.7	▲ 47.7	0.0
製造業	▲ 61.5	▲ 58.6	▲ 2.9
	▲ 57.7	▲ 72.4	14.7
建設業 (土木)	▲ 56.3	▲ 21.1	▲ 35.2
	▲ 50.0	▲ 15.8	▲ 34.2
建設業 (職別・設備)	▲ 37.0	▲ 42.3	5.3
	▲ 59.3	▲ 50.0	▲ 9.3
卸売業	▲ 34.6	▲ 36.0	1.4
	▲ 53.8	▲ 56.0	2.2
小売業	▲ 49.1	▲ 47.5	▲ 1.6
	▲ 49.1	▲ 50.8	1.7
飲食業	▲ 53.8	▲ 35.7	▲ 18.1
	▲ 69.2	▲ 28.6	▲ 40.6
サービス業	▲ 25.5	▲ 27.3	1.8
	▲ 25.5	▲ 40.5	15.0

## 来期(21年10~12月期)の業況見通し

全業種における来期(21年10~12月期)の業況見通しのD I値は▲11.5となり、21年6月期の前回調査の業況D I値▲19.1と比較してプラス7.6ポイントと3期連続で改善した。

前回調査と比較して来期の業況見通しのD I値が改善する業種は、卸売業・サービス業・製造業・小売業の4業種で、卸売業は▲4.2でプラス19.8ポイント、サービス業は8.9でプラス19.2ポイントと明るい業況見通しを示した。一方、業況見通しが悪化する業種は、建設業(土木)・建設業(職別・設備)・飲食業の3業種で、特に、公共工事の削減が懸念される建設業(土木)は▲31.3でマイナス20.8ポイントと厳しい業況見通しとなった。

業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業 種	今回調査 (21年9月)	前回調査 (21年6月)	今回調査との比較
全業種	▲11.5	▲19.1	7.6
製造業	▲19.0	▲32.0	13.0
建設業 (土木)	▲31.3	▲10.5	▲20.8
建設業 (職別・設備)	▲28.0	▲16.0	▲12.0
卸売業	▲4.2	▲24.0	19.8
小売業	▲16.3	▲28.8	12.5
飲食業	▲8.3	7.1	▲15.4
サービス業	8.9	▲10.3	19.2